

うひはたぶみ (初機踏)

H.A.M.A.木綿庵だより

第53号

2021(令和3)年5月26日

(編集発行 梅田正之 090-5042-7775)

実わた目方の事

— 2020年産 繰り綿の歩留りについて —

木綿庵の畑で収穫した2020年産の綿花、実綿(みわた)の綿繰りを、ようやく終わることができました。8月下旬から順次収穫した実綿は十分に乾燥させる期間をおいて、例年10月下旬頃より綿繰りをはじめます。綿繰りとは実綿から種を取り除く工程で、種が取り除かれた綿を「繰り綿」、あるいは「繰り粉(くりこ)」と呼びます。綿繰りについては本誌第5号(2017年5月)と第22号(2018年10月)においても触れたことがあります。第5号では「命取りの機械」と題して綿繰りに要する作業時間について、第22号では「要は程度の問題」と題して繰り綿に混入するゴミを減らす工夫について触れています。

今回は、繰り綿の歩留り(ぶどまり)についての報告です。天保4年(1833)に刊行された大蔵永常『綿圃要務』には、「実わた目方の事」の条において下記のように記されています。

「和州にて壺斤と云ハ、式百五拾目也。又式百四拾目もあり。但、此実綿式百五拾目をくりて実をされバ、上二而くり粉七十目位、中にて六十四五匁、下二而六十目位出来る也。」(『日本農書全集』第15巻、農山漁村文化協会、昭和52年)376頁。同頁には編者註として「目、匁。一貫は一〇〇〇匁。多くは末端の数字が零のばあいには『目』を、端数のあるばあいには『匁』にて表現している。永常の使用はその点不統一である。」と記されています。

つまり、「この実綿式百五十目を繰って実を除くと、上等のものでくり粉約七十目くらい、中等のもので六十四、五匁、下等のもので六十目くらいである。」(同頁)ということです。

佐貫尹『続・木綿伝承』(染織と生活社、2009年)では、『綿圃要務』における上記の記述から実綿に対する繰り綿の割合を「歩留り」として「%」で表しています。実綿250目に対して繰り綿70目で歩留りは28%位。これが上綿。歩留り26%位で中綿、24%位であれば下綿となります。

そして、「この数字から当時の繰り綿の歩留りは二十数パーセントでした。参考までに私の所で収穫した和綿(茶綿)の繰り綿の歩留りも二五パーセント前後です。皆様の所はどの位になるのでしょうか。」(『続・木綿伝承』26頁)と問いかけます。

以下は、2020年に収穫した木綿庵の品種別歩留りです。実綿量は計測時値。収穫総量とは異なります。

種 類	実綿g	種g	繰り綿g	歩留り%
大和山辺綿(赤木)	1,000	735.9	262.4	26.2
大和山辺綿(青木)	1,000	699.4	298.2	29.8
大和山辺綿(青木)	1,077	750.0	327.0	30.4
河内綿(神立)	500	342.6	155.3	31.1
河内綿(石切)	500	339.7	156.3	31.3
河内綿(千塚)	200	138.7	61.1	30.6
伯州綿(境港)	1,722	1,194.0	528.0	30.7
真岡綿(真岡)	200	149.9	50.2	25.1
洋綿(初期収穫)	500	265.5	202.0	40.4
洋綿(中期以降)	1,329	787.5	541.6	36.3

繰り綿の記録用紙。所要時間も記録している

Monthly Data

【天理やまのべ木綿庵】(問い合わせ件数 令和3年4月24日～令和3年5月23日)

宮城県1、埼玉県1、京都府1、大阪府1、兵庫県2、広島県2

【H.A.M.A.木綿庵】(令和3年4月24日～令和3年5月23日)

メールを含む各種相談件数5、綿畑や作業場の見学を兼ねた事前申込済来庵者数5件8名



《綿の栽培記録 2021》－ 令和3年度版 その4－

天理市乙木町における梅田の感覚的観測データです。○=晴れ。△=曇り。×=雨。○/×=晴のち雨。○|×=晴時々雨。△:×=曇り一時雨。*今年は例年より3週間近くも早く、5月16日に近畿地方の梅雨入りが発表されました。

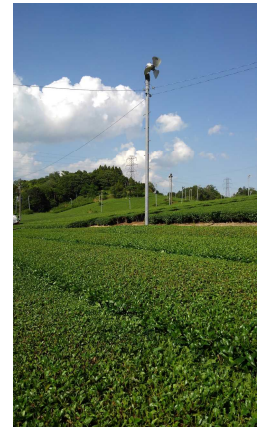
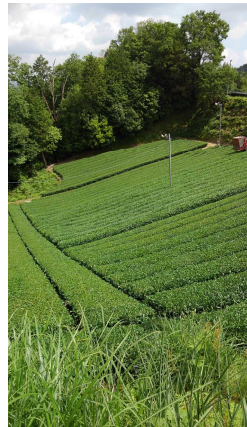
4月26○|△、27△|○、28△/×、29×、30×/△、5月1△/×、2△|×、3○、4○、5×、6○、7○|△、8△|○、9○、10○|△、11○|△、12△/×、13△、14○|△、15△|○、16△|×、17×/△、18△|×、19×、20×、21×、22△|×、23△|○、24△/×。25△。

今年も5月3日(1号畑)、4日(7号畑)、6日(5号畑)、8日(6号畑)に綿の種を蒔き、順調に生長しています。イベントは中止にしましたが、3日は3グループ、4日は2グループ、8日は6グループの方が種まきをお手伝いくださいました。写真左より：前夜から水に浸けておいた綿の種、3点播きの様子、種まき作業の様子です(1号畑)。



《茶摘みを体験:奈良市月ヶ瀬 — 令和3年5月18日～》

奈良の月ヶ瀬といえすぐに梅林を思い浮かべます。ところが、当地で茶摘みのお手伝い(パート)をさせていただくようになり、梅林は今ではごく一部のエリアに限られ、その梅林を取り囲む周囲の山々がすべて大和茶の茶畑であることを知りました。また、茶摘みといえば「八十八夜」という印象が強いものの、当地ではもう少し遅れるとの由。最良の茶葉は「一針二葉(いっしんによう)」と呼ばれる開きかけの新芽。これを含めて最初に摘み(刈り)取るのが「初茶(しょちゃ、しょうちゃ)」、「一番茶」。その後に刈り取るのが「番茶」。番茶のあと約35日を置き刈り取るのが「二番茶」。初茶の摘み採り前7～10日間(抹茶用の碾茶は約20日)ほどは、寒冷紗(黒いシート)をかけます。日光を遮り光合成を促すことで色と味わいが深くなるそうです。なお、月ヶ瀬にある桃香野、月瀬、嵩(だけ)、長引、石打、尾山の各地区や農家によって、茶摘みの要領も微妙に異なるとのこと。二番茶の収穫は7月末まで。茶摘みは10月頃にもう一度行われ、「秋茶(あきちゃ)」となります。写真は左端：お茶の葉。中：寒冷紗をかけた茶畑。右端：霜除けの扇風機。



【綿の加工の作業記録】 (梅田 1 人の作業量)

- 糸車を用いての糸紡ぎ量 (和綿：平成30年, 2018年産。丹羽正行氏による打ち綿)
- 4月24日～5月23日 (作業実日数25日) 糸の総量66.1 g (17.6匁) 総時間206分 (3時間26分)
- ※1分間≒0.321 g 1時間≒19.3g (5.1匁)

【研修等の記録】

- 令和3年05月03日「綿の種まき」(1号畑)。公開イベントは自粛。5名の方が播種作業をお手伝い下さる。
 - 令和3年05月04日「綿の種まき」(7号畑)。4名の方がお手伝いに。出版社によるビデオ撮影が行われた。
 - 令和3年05月16日 まほろばキッチン(奈良県橿原市。農産物直売所)に「紅花若菜」他を出荷。
 - 令和3年05月18日 大和茶の茶畑(奈良市月ヶ瀬)にて茶摘みの手伝い(パート)をはじめる。週6日。
- ※緊急事態宣言の発出を受け、相楽木綿伝承館および機織り教室は4月25日以降休館、休止がつづいています。